

問1 古代の税制に関する学習資料において、農民の負担についてまとめた以下の文の空欄にあてはまる内容として、正しいものはどれですか。「農民にとって、特産品や布を納めること自体も大変でしたが、さらにそれらの品物を（ ）ことが大きな負担となっていました。」（2016年 富山県公立入試 類似）

1. 決められた期日までにすべて自分で収穫する  
2. 自ら都まで運ぶ  
3. 役人の目の前で規格通りに作り直す  
4. 他人の分も代行して生産する

問2 古代の租税制度について述べた次の説明のうち、全国各地から平城京に集められた「調」の説明として正しいものはどれか。

（2021年 奈良公立入試 類似）

1. 口分田の面積に応じて、収穫した稲の一部を地方の役所に納める。  
2. 都での労働の代わりとして、布を中央政府に納める。  
3. 九州北部の警備のために、防人として兵役につく。  
4. 各地の絹や魚といった特産品を、納税者が都まで運んで納める。

問3 聖武天皇が、都に東大寺を、全国各地に国分寺・国分尼寺を建立するなどの大規模な造営事業を次々と進めた背景にある目的や理由について、最も深く関連する説明を選んでください。（2016年 長崎県公立入試 類似）

1. 伝染病の流行や政治の対立による社会的な動揺を、仏教の力によって抑え込み、国家の平和を祈るため。  
2. 地方の豪族たちの信仰を強制的に統一し、中央集権的な戸籍制度を強化するための役所として機能させるため。  
3. シルクロードを通じてもたらされた唐の最新の建築技術を、民衆に見せつけることで天皇の威信を高めるため。  
4. 比叡山や高野山などの山岳信仰と結びついた新しい仏教を、都市部から排除して国家の管理下に置くため。

問4 飛鳥時代から奈良時代にかけて、現在の福岡県にあたる九州北部に設置され、大陸との交流の窓口や海岸線の警備を担った、「遠の朝廷（とおのみかど）」とも呼ばれる役所を選びなさい。（2020年 和歌山公立入試 類似）

1. 大宰府  
2. 多賀城  
3. 秋田城  
4. 防人

問5 唐の僧侶である鑑真が、5度もの渡航失敗や、それによる失明という苦難を乗り越えてまで日本へ来ようとした主な目的は何ですか。当時の社会背景を踏まえた説明として最も適切なものを選びなさい。（2023年 和歌山公立入試 類似）

1. 日本の僧侶に正式な資格を授けるための「戒律」を伝え、仏教の秩序を整えるため  
2. 大仏造営のための高度な建築技術や、銅を精錬する新しい技術を日本に伝えるため  
3. 地方の貧しい人々を救済し、橋や堤防を築くなどの社会事業を日本で展開するため  
4. 遣唐使と協力して、唐の進んだ政治制度である律令を日本に導入させるため

問6 聖武天皇が東大寺に巨大な仏像（大仏）を造立することを決意した背景には、当時の社会情勢が深く関わっています。その背景として適切な説明を選んでください。（2026年 千葉公立入試 類似）

1. 天然痘の流行や飢饉、貴族による政変が続き、それらの災いを仏教の力で鎮めたいと考えたため  
2. 武士の勢力が増大し、その力を抑えるために仏教を国の最高位の教えとして再編しようとしたため  
3. 大陸との国交を断絶したことで日本独自の文化が衰退し、改めて唐の文化を取り入れる象徴とするため  
4. 日本各地でキリスト教が広まり始め、それに対抗するために仏教寺院のネットワークを強化したかったため

問7 律令制度のもと、政府が戸籍に基づいて6歳以上の人民に一定の面積の田地を割り当てた仕組みにおいて、人々に与えられた土地を何といいますか。この土地は本人の死後に国へ返還する決まりがあり、収穫高に応じて税が課されました。（2015年 岐阜公立入試 類似）

1. 口分田  
2. 墾田  
3. 名田  
4. 荘園

問8 743年に発布された墾田永年私財法が、その後の日本の社会制度に与えた影響として最も適切な説明はどれですか。（2020年 熊本県公立入試 類似）

1. すべての土地を国が管理する公地公民の原則がより厳格に運用されるようになった。  
2. 貴族や寺院が大規模な開墾を進め、私有地である荘園が形成されるきっかけとなった。  
3. 農民に一定の土地を割り当てて税を徴収する班田収授の仕組みが完成した。  
4. 土地の売買が完全に禁止されたことで、農民の生活が安定し人口が急増した。

問9 奈良時代末期にまとめられた、天皇や貴族から、防人や農民といった庶民にいたるまで、幅広い層の人々の歌が収められている日本最古の歌集は何ですか。（2020年 鹿児島県公立入試 類似）

1. 万葉集  
2. 古今和歌集  
3. 新古今和歌集  
4. 懐風藻

## 答え合わせ・解説

問1	<b>答え 2</b> 自ら都まで運ぶ	当時の税制では、地方から都へ品物を届ける輸送手段が整備されておらず、農民自身の徒歩による運搬に頼っていました。自分の負担分を背負って都まで歩くという物理的な労働と、その期間の食料負担が、単なる「納税」以上の重圧となって農民にのしかかっていた。これは、後の時代のように役人が回収に来たり、輸送業者が代行したりする仕組みとは大きく異なる点です。
問2	<b>答え 4</b> 各地の絹や魚といった特産物を、納税者が都まで運んで納める。	律令制度下の「調」は、地方ごとの特産物を都に届ける義務を指します。都の役人の給与や儀式の費用、国家の資材として利用されました。選択肢にある「稲の一部を納める」のは租、「労役の代わりの布」は庸、「九州北部の警備」は防人をそれぞれ指しており、制度ごとに納める品目や場所、目的が明確に区分されていました。
問3	<b>答え 1</b> 伝染病の流行や政治の対立による社会的な動揺を、仏教の力によって抑え込み、国家の平和を祈るため。	聖武天皇の時代は、藤原広嗣の乱などの政治的混乱や、多くの死者を出した天然痘の流行、大地震などの災害が重なった時期でした。天皇はこれらの災厄を個人的な不徳によるものと考え、仏教の力に頼ることで社会を安定させ、人々の不安を取り除こうとする「鎮護国家」の政策を強力に推進しました。
問4	<b>答え 1</b> 大宰府	九州北部は地理的に中国大陸や朝鮮半島に近いので、古くから外交の拠点となりました。大宰府は、唐や新羅などの使節を迎え入れる外交機能と、外敵の侵入を防ぐ防衛機能の両方を兼ね備えており、都から離れた場所にある重要な行政機関という意味で「遠の朝廷」と呼ばれました。
問5	<b>答え 1</b> 日本の僧侶に正式な資格を授けるための「戒律」を伝え、仏教の秩序を整えるため	当時の日本では、税を逃れるために勝手に僧侶になる者が増えており、仏教の規律が乱れていました。国家として正式な僧侶を認めるための儀式（授戒）を行うには、正しい「戒律」を理解した指導者が必要だったため、鑑真は命懸けで来日を目指しました。社会事業を行ったのは行基、大仏造営は聖武天皇の政策、政治制度の導入は主に遣唐使や留学生の役割です。
問6	<b>答え 1</b> 天然痘の流行や飢饉、貴族による政変が続き、それらの災いを仏教の力で鎮めたいと考えたため	聖武天皇の治世では、長屋王の変などの激しい権力争いに加え、天然痘の大流行による人口減少や飢饉が発生し、社会は非常に不安定でした。こうした深刻な状況を打破し、人々の心をまとめ、国家を再建する拠り所として、鎮護国家の思想に基づく大仏造立や天平文化の振興が行われました。
問7	<b>答え 1</b> 口分田	律令国家が「公地公民」の原則に基づき、土地と人民を直接支配するために整えた仕組みが班田収授法です。この法によって、6歳以上の男女に与えられた土地を口分田と呼びます。口分田を与えられた人々には、その面積に応じて収穫の約3%を稲で納める「租」という税の負担が義務付けられていました。
問8	<b>答え 2</b> 貴族や寺院が大規模な開墾を進め、私有地である荘園が形成されるきっかけとなった。	墾田永年私財法によって土地の永久私有が認められると、豊かな経済力を持つ貴族や寺院は、付近の農民や浮浪者を利用して大規模な開墾を行うようになりました。こうして私有地が拡大したことで、大化の改新以来の原則であった公地公民の制は崩れていき、後の「荘園（しょうえん）」と呼ばれる私領へと発展していくこととなります。
問9	<b>答え 1</b> 万葉集	奈良時代末期に成立した日本最古の歌集です。天皇や貴族だけでなく、東国の農民や九州の警備に当たった防人（さきもり）の歌なども収められており、当時の人々の素朴な感情や生活を知ることができる貴重な資料です。現在の元号である「令和」の典拠となったことでも知られています。